

立川市立若葉台小学校

# 学校だより

令和2年8月24日発行

校長 井土 満  
〒190-0001  
立川市若葉町4-24-1  
TEL 042-536-3971  
FAX 042-534-6943  
HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>



## 特別な夏

いつち みつる  
校長 井土 満

なんとも暑い3週間の夏休みでした。23日間の休みのうち、東京では10日も35℃以上の「猛暑日」を記録しました。こんな夏はあまりないと思った方も多いはずですが、気候や気象の記憶はすぐに薄れてしまうもので、去年の8月にも10日の猛暑日があったそうです。また、一昨年には、青梅で40.8℃を記録し、日本の高温記録のトップ10の中には2018年の記録が5ヶ所も記録されているので、この年も暑かったことが分かります。

それでも今年の暑さも、8月17日には、静岡県浜松市で歴代記録に並ぶ41.1℃を記録し、11日には青梅で39.6℃、八王子で39.3℃、府中で38.1℃を記録するなど、確かに「暑い!!」夏でした。

気象用語で「猛暑日」と言う言葉が使われるようになったのは2007年からのことですが、そのうち40℃以上の日を表す言葉も出てくるかもしれませんね。例えば、激暑日とか、酷暑日とか、炎暑日とか・・・。

「熱中症警戒アラート」や「命の危険性のある暑さ」などの言葉も連日ニュースで聞かれましたが、その警報の通り、8月22日までの東京都での熱中症による死者数は148人にのぼっています。

熱中症ばかりでなく、私たちの日常には、命の危機に関わる様々な要件があふれています。この夏だけで考えても、各地での水害、川や海での水の事故、そして新型コロナウイルスの感染拡大などがあります。また、日常生活の中での交通事故や、いつか来るであろう大地震も命に関わる危機です。

その一つ一つの危機をどうやって避けて、命に関わるリスクを減らしていくかを子供たちに教えるのは、大人の責任です。教えるだけでなく、その行動を徹底すること、続けさせることが、何よりも大切です。

2学期以降、学校では、交通安全の指導、地震などの災害に備えた訓練を繰り返し行っています。また、新型コロナウイルスの感染予防、感染拡大防止にも、継続して取り組んでいます。行事の変更や、来校の制限など、ご家庭や地域の皆様にもご不便をかけますが、ぜひご協力をお願い致します。

数日前には、コロナ感染経路は家庭内が4割で、そのうち10代以下の感染は家庭内が7割という報道がありました。大人が持ち込んだウイルスに、子供は家庭内で感染するという事です。残念ながら、有効なワクチンの開発や予防法が確立されていない中、社会生活を送る大人の感染を完全に防ぐのは難しいことです。家の中でも「マスク」というのは、ちょっとつらすぎますので、せめて家族みんなで、小まめな手洗いや毎朝晩の検温を実施しましょう。

小池都知事は、お盆や夏休み期間は都外への旅行や帰省、夜間の会食、遠くへの外出を控えるよう呼びかけ、「今年は新型コロナウイルスの感染拡大を抑え込む『特別な夏』だ」と言いました。この言葉を受け、おそらく多くのご家庭で、旅行や帰省を取りやめ、子供たちは外出する機会があまりないまま、家にいる時間が多かったと思います。子供たちには、我慢ばかりが強いられた、心も体もつらい「特別な夏」だったのではないのでしょうか。

2学期は、そんな気持ちが少しでも晴れるような、充実した教育活動を、全教職員が力を合わせておこなっていきます。

大人になると去年の夏も忘れてしまいがちですが、子供の頃の夏休みのことは、いろいろと覚えています。川で初めて泳げるようになったときのこと、朝早く起きてカブトムシを捕りに行ったこと、父と行った大阪の万国博覧会、宿題が終わってなくて大泣きした9月1日の朝のことなど。温度も、音も、匂いも思い出せる気がします。

子供たちには、この「特別な夏」は、一生忘れない「本当に特別な夏」になるのかもしれませんが。



8/24 2学期が始まりました